



「土浦・勝田統括センターの新設について」詳細提案を受ける！～その②～

5. 議論内容

組合: 今回の目的を明らかにすること。

会社: 系統を超えて新たな価値の創造を一層推進していく観点から、社員一人ひとりの成長意欲に応え、活躍フィールドを拡大させ、柔軟な働き方を実現していくためである。

組合: 統括センター新設に向けて実施してきた内容を示すこと。

会社: 土浦及び勝田でワーキンググループを発足し、教育体制や発足後の体制について議論を積み重ねた。水戸統括センター社員も入り、これまで統括センター化された経験も活かしている。

組合: 営業統括センターの成果と課題を明らかにすること。

会社: 営業統括センター内で駅同士の融合、営業と輸送の融合等が図れた。また、企画業務等を担い、フレキシブルな働き方が浸透した。

組合: 水戸統括センター発足以降の成果と課題を明らかにすること。

会社: 水戸線と常磐線の特情を学ぶことや駅の副長が乗務職場の副長を担う等が行われた。その他、営業の業務指導が乗務職場で指導する等を行った。

組合: 定期行路内のその他時間で券売機案内等を行っているが、使い方がわからない、教育もされておらず、社員間に知識の差が生まれている。水戸支社の考えを示すこと。

会社: そのような意見は把握している。今後は実機を使用した訓練も検討していく。

組合: 箇所体制について、出面数の増減や乗務行路、循環交番、作業ダイヤの変化について示すこと。

会社: 現行の作業量を効率化することは難しいため、現行の体制で推移する考えである。駅の作業ダイヤはワーキンググループで検討し、中身を変更することもある。作業ダイヤの変更は箇所長が判断する。

組合: 各統括センターに業務グループと企画グループを設置する理由を明らかにすること。

会社: これまでも営業統括センター発足時に設置し、統括センターでも同様に実施してきた。業務グループは鉄道オペレーションに従事する。企画グループは企画業務や事務業務に従事する。

組合: 3つのユニットを設置する理由を明らかにすること。また、全社員をいずれかのユニットに所属する理由を明らかにすること。

会社: 統括センター全体で企画業務に取り組むためユニットを設置する。また、統括センター全体で運営していくことや企画業務に携わる風土を醸成するため、全社員がユニットに所属する。

組合: 業務グループと企画グループや各ユニット同士の融合と連携について明らかにすること。

会社: 勉強会の運営など、業務グループと企画グループで連携することや、鉄道オペレーションの中でユニット同士の連携がある。また、企画業務の課題解決で融合と連携を行うこともある。

組合: 車両センターや設備技術センター、支社やグループ会社との融合と連携について明らかにすること。

会社: これまでイベント対応等を営業統括センターから呼びかけていた。今後行う考えである。

組合: 各統括センターの指揮命令系統を明らかにすること。

会社: 就業規則に則って取り扱う。ユニット制についてはユニットリーダーが全体の運営を把握する。必ずしもユニットリーダーは管理者ではない場合もあるが、管理者も在籍しているため、管理者の指示を受けて活動することとなる。

組合: ユニット制の配置について水戸支社の考えを明らかにすること。

会社: ワーキンググループで検討し、箇所長が最終的に決定する。水戸統括センター社員からもアドバイスをを行っている。

組合: 土浦運輸区では7月から運転士が土浦営業統括センター(土浦駅)の輸送業務の見習いが始まった。今後の展望を示すこと。

会社: 適切な時期に1本立ちを考えている。支社は教育やフォローを行う考えである。

JR東労組水戸地本は組合員・社員の要求をもとに、団体交渉を行います!